

広域市町村圏別硫黄酸化物、窒素酸化物排出量調（昭和65年度）

物質別 圏域別	硫 黄 酸 化 物			窒 素 酸 化 物		
	t/年	%	伸び率(65/52)	t/年	%	伸び率(65/52)
仙 台 都 市 圏	25,147	75.6	1.64	34,517	70.6	1.34
仙 南 圏	1,278	3.8	2.01	3,239	6.6	1.31
大 崎 圏	1,158	3.5	1.75	2,777	5.8	1.18
栗 原 圏	306	0.9	1.83	1,353	2.8	1.26
石 巻 圏	4,699	14.1	1.75	5,046	10.3	1.53
登 米 圏	277	0.8	2.15	822	1.6	1.18
気仙沼・本吉圏	395	1.3	1.82	1,113	2.3	1.16
計	33,260	100.0	1.68	48,867	100.0	1.34

(2) 環 境 濃 度

昭和65年度における二酸化硫黄、二酸化窒素の環境濃度をメッシュ別に推定した結果をみると、二酸化硫黄の濃度分布は昭和52年度と同じく仙台都市圏、石巻圏が高い傾向を示すほか、高濃度部分の範囲が広がるものと予測される。その他の圏域についてはほとんど変化がない。

二酸化窒素の濃度分布も昭和52年度と同じ傾向にあるが、自動車排出ガス規制の効果により、仙台都市圏の市街地では濃度が低くなるものと予測される。メッシュ別の全県域における1時間値の年平均値は、二酸化硫黄は0.003 ppm、二酸化窒素は0.004 ppmとなるものと予測される。

なお、別に添付している「二酸化硫黄濃度予測分布図」及び「二酸化窒素濃度予測分布図」はひとつの予測結果を示したものであり、昭和65年度において容認される姿を示したのではなく、また、本計画により今後行われる環境管理の結果を示したものではない。

第 3 節 環 境 容 量

1. 環境保全水準の設定

大気質に係る環境保全水準は、二酸化硫黄、二酸化窒素を対象として、公害対策基本法に基づき定められている環境基準を満足するものとして設定するものであるが、本計画における大気質

の環境管理は、メッシュ
うえて最も合理的な年

二酸化硫黄の環境保
局の測定結果を用い、
り、環境基準値の1時
環境保全水準とする。

二酸化窒素の環境保
定結果を用い、1時間
としている1時間値の
全水準とする。

2. 環境容量の設定

大気質に係る環境容
持し得る許容排出量と
することから設定する
することとする。

第 4 節 環 境

二酸化硫黄の環境濃
度では仙台市を中心
るものと予測される。

二酸化窒素の環境濃
り、昭和65年度では36
では環境濃度が高くな
れる。

なお、今後、石油に
が大きくなるおそれが

このような現況と将
れるよう、メッシュに